

1 単元名 世界に一つだけの物語を書こう 「ふしぎな世界へ出かけよう」

2 単元の目標

- 想像したことをもとに楽しんで物語を書こうとする。 (国語への関心・意欲・態度)
- 構成を考えて、場面の情景が伝わるように、表現を工夫して筋道の通った物語を書くことができる。 (書く能力)
- 文章を特徴付ける語句に気付き、語句と語句との関係を理解して書くことができる。 (言語についての知識・理解・技能)

3 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
・想像したことをもとに楽しんで物語を書こうとしている。	・場面展開を考え、構成をもとに筋道の通った物語を書いている。 ・場面の様子が伝わるように、言葉を選び、表現を工夫して書いている。	・文章を特徴付ける語句に気付き、語句と語句との関係を理解して書いている。

4 単元について

(1) 教材観

本教材は、想像したことをもとに物語を書くという言語活動を通して、場面の展開の仕方を考えながら、筋道の通った文章を書く能力を身に付けることをねらいとしている。また、場面の情景が伝わるよう、表現を工夫することも求めている。新しい世界に対するあこがれが強くなる時期の児童にとって、自由に想像し物語を書くことは、知的好奇心を刺激し、書きたいという意欲を高めることにつながるのではないかと期待できる。身の回りの自然や日常生活を見つめる感性を養ったり、書くことの楽しさを味わったりすることができる教材である。

(2) 児童観 (男子*人 女子*人 計*人)

事前調査の結果を見ると、本学級の児童は「物語の学習が好き」「読書が好き」という理由から*人の児童が国語科の学習が好きだという意識をもっている。その一方で「作文を書くことが苦手」「説明文の学習は難しい。」と感じている児童も*人いる。

単元末テストや日頃の授業の様子から児童の「書く能力」を考察すると、目的に応じて自分の考えを書くことができる児童は約*人で、正しい表記で表現を工夫して書くことができる児童は、10名程度である。構成や表現を工夫して、文章を書く力を身に付け、表現力を高めることが本学級の児童には必要だと考えている。

(3) 指導観

場面の展開の仕方や構成を考えながら、筋道の通った文章を書くことができるように、まず「ふしぎな世界」がどのような場所なのか、時はいつなのか、中心となる人物はどんな人物なのかなど、物語の設定を具体的に考えさせたい。次に「設定」「展開」「山場」「結末」という四つの部分から物語の全体の見通しを立てさせて物語を書かせたい。さらに、「出来事の変化を表して読む人の興味をひきつける言葉」などの表現の工夫を考えさせ、文章を書く中で生かすことができるようにしたい。

5 指導と評価の計画（6時間扱い）

時	主な学習活動	主な評価
1	・物語に書きたい「不思議な世界」を想像し中心人物像を考える。	・物語を書くことに興味をもち、「不思議な世界」について考えようとしている。（関・意・態） ・「不思議な世界」や中心人物の人物像を考えている。（書く能力）
2 3	・「設定」「展開」「山場」「結末」の四つの部分に気を付けて物語の構成を考える。	・想像したことをもとに、物語全体を見通して四つの部分から構成を考えている。（書く能力）
4 (本時) 5	・物語の構成を見直して書く準備を整える。 ・場面の様子や人物の気持ちが伝わるように工夫して、筋道の通った物語を書く。	・物語の全体を見通して構成を見直し、書く準備を整えている。（書く能力） ・構成を工夫して、筋道の通った物語を書いている。（書く能力） ・語句と語句との関係を考えながら物語を書いている。（言語についての知識・理解・技能）
6	・書いた物語を読み合って感想を伝え合う。	・友達の書いた物語のおもしろさや表現の工夫について、助言し合っている。（書く能力）

6 本時の学習

(1) 目標

物語の構成を見直して書く準備を整え、表現を工夫して「設定」の部分を書くことができる。

(2) 準備・資料

掲示資料（物語の構成例 ファンタジー作品の冒頭部分 「学習の進め方」）

ファンタジー作品集 ワークシート

(3) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点（◎個への対応 ※評価）
1 本時の学習課題を確認する。 物語の構成を見直して、表現を工夫して、「設定」の部分を書こう。	・「筋道の通った構成」「表現を工夫する」とはどんなことかを具体的に示した資料を提示することによって、本時の学習に意欲をもって取り組めるようにする。 ・本時の終末で自己評価しやすいように、学習課題に対する評価の観点を示しておく。
2 学習の進め方を確認する。 物語の構成を見直す→書き出しの工夫を考えると「設定」の部分を書く→（「展開」の部分を書く）→紹介し合う	・単元全体と本時の「学習の進め方」をまとめた掲示資料を活用することによって、短時間で確認できるようにする。 ・早く進んだ場合は「展開」の部分に進んでよいことを伝えておく。
3 物語の構成を見直す。（学び合い1） 「筋道の通った構成」例と照らし合わせながら、「どこで」「だれが」「どうする」	・「筋道の通った構成」例として、次のような掲示資料を提示することによって、見直すことができるようにする。

物語なのか、筋道は通っているかを確かめる。

- ・ 自分自身で見直す。
- ・ 4人1組のグループを作り、お互いの構成を説明し、質問や応答をしながら見直す。

4 自分が考えた構成をもとに、物語の「設定」(→「展開」)部分を書く。

○ 「設定」のどの部分から書き出すのか考える。

(例)・中心人物の設定から

- ・ 時 (いつの時代) の設定から
- ・ 場所 (現在の場所、舞台) の設定から

5 書いた物語の「設定」の部分を読み直し、紹介し合う。(学び合い2)

6 本時の学習活動を振り返り、次時の学習内容を確認する。

「設定」…中心人物、出来事のきっかけは何か。

「展開」…どんな不思議な世界か、どんな出来事が起こるのか。

「山場」…不思議な世界での出来事をどう乗り越えるのか、どうやって元の世界に戻るのか。

「結末」…元の世界に戻った後、何があったか。

◎ 「設定」の部分のどこから書き出すのか、書き出しのパターン(ファンタジー作品の冒頭部分)をいくつか提示することによって、書き出しでつまづくことがないようにする。

◎ 前時までの学習活動の状況を見取った補助簿を活用し、書くことが苦手な児童の書き出し例を準備し、必要に応じて活用する。

※ 物語の構成を見直して書く準備を整え、表現を工夫して「設定」の部分を書いている。
(行動観察・ワークシート)

・グループまたは全体で、「設定」の部分を紹介し合い、「一言感想」を述べ合うことで、次時の学習活動に意欲をつなぐことができるようにする。

・導入で示した自己評価の観点に沿って、本時の学習活動を振り返ることができるようにする。